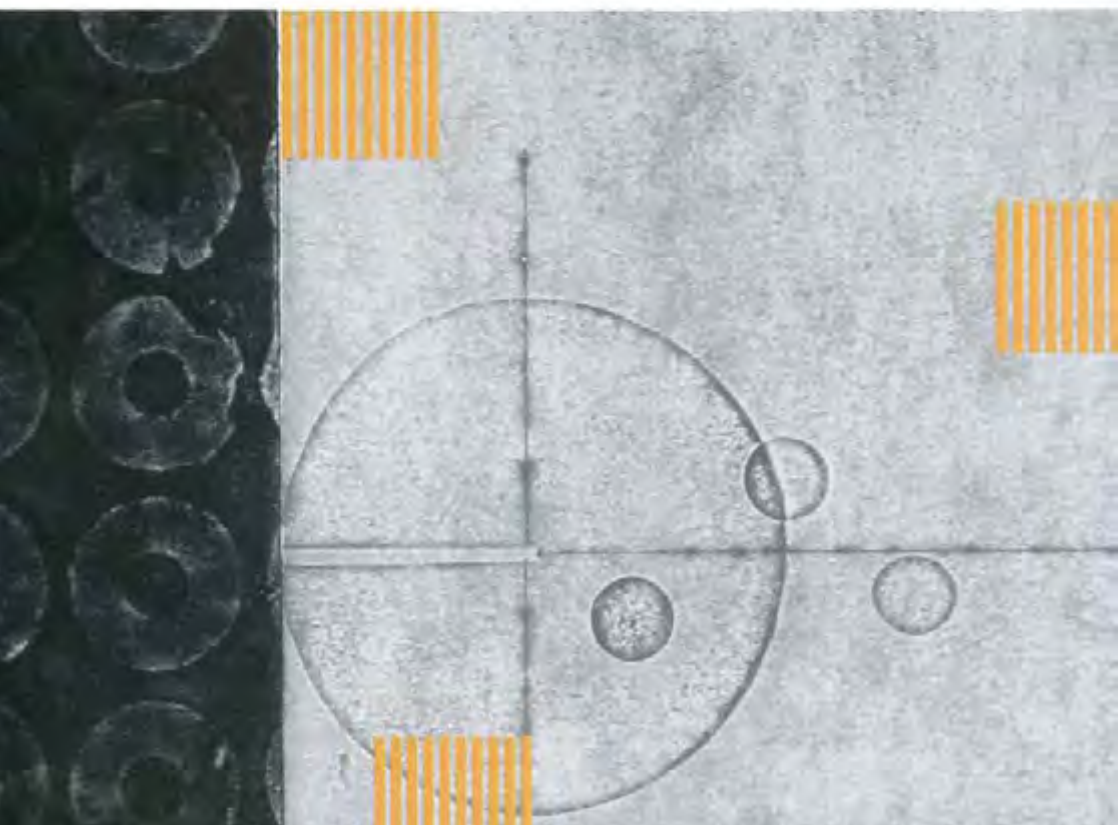


船団

第101号

特集

花いちもんめ
— どの花欲しい？



津田 このみ

山に雪座右の銘を聞かさるる
雪女その耳たぶの薄きこと
ひたし豆鹿肉野沢菜雪見酒
妻が今日優し気である雪しんしん
その人のまぶたの上の雪あかり
雪片雪片もう会えぬ人ばかり
銀河系1DKの窓に雪

土谷 倫

整然と畝の続くや年の暮
蝶結びするりとほどけ去年今年
ムスリムの女装へり初鏡
知恵の輪の解け綿虫に遇へるやも
大寒の樹の下に落つ尾羽かな
水草の根のながながし寒の明け
樹名板たしかめ仰ぐ二月かな

● 会員作品 ●

津波古 江津

川はむこうに行ってしまつて式部の実
雲の秋ときどきは死ぬふりをして
かすむとき沖思いけり枇杷の花
短日のまず倒木を越えにけり
風花やときどきからだ折りたたむ
わたくしのあたしの中の冬の橋
わが沖のくつきりとして寒晒

坪内 稔典

原子炉を抱いて菜の花半島よ
半島の膝に原子炉菜の花も
風光る水平線がまつすぐに
午後三時春の鷗の三羽ほど
君は今ラファエル前派春の水
象に乗る約束の日の水温む
犀が来て放つて去つた野火だ野火

中原 幸子

せんせいも下駄もさんづけお正月
まつすぐな道をまつすぐ寒オリオン
粒あんの最中のように春隣
立春のふーんふーんと怒り肩
ギザギザがわたしのかたち春に鍵
啄木のおでこが光る木の実植う
みみずって逆立ちできるのかしらね

中村 あいこ

空気読むように散ります山茶花は
冬青空水琴窟になっっている
小寒や野菜を先に食べる癖
金平糖みんなでこぼこ日向ぼこ
眠る子の絵本に宿る冬の虹
冬薔薇カタカナで書くコウレイシャ
つんつんと青空を突く立春

● 会員作品 ●

梨地 ことこ

街灯を雪が渦まく私をうずまく
白銀にオコジョと鶴屋南北と
大寒の町家で刻むベルニーニ
酒粕のとけ方気持のほどけ方
如月は豆煮る貞女の顔をして
節分だけどレイ・チャールズを聞いている
バックシャン別れた背せなに春一番

南北 佳昭

それも困るよねえ木の実どつと降る
口角を上げ就活へ落葉踏む
時雨るるやぎいと勝鬃橋あがる
築地月島木場晴海それぞれの時雨
辺境の島の蒼さや憂国忌
疲れたる楽隊冬の影法師
ホテルローヤル小さき窓に冬夕焼

東 英幸

七種の女一人の台所
年男顔は鏡の中にある
決断の一つの力寒北斗
オランウータン手を出してくる雪催
立春の榎の瘤と話し込む
充分に着ぶくれて前期高齢者
バレンタインの日シャガールの絵は傾いたまま

火箱 ひろ

綿虫や久方ぶりを恥じ入ると
食前の薬を飲めば三十三才
行間のように賀茂川冬日射す
核心に触れないようにみかんむく
文庫本丸め白鳥待つ時間
鳥笛を吹くよ風花強くなる
本籍は春の深雪のなかにかな

● 会員作品 ●

陽山 道子

くずし字の筆あとなぞる窓に雪
東風吹いて日本のリケジョ立ち上がる
春めいて土塀の破れから子猫
そこに居て指すほう同じ土佐水木
春の日の手帳の余白花マーク
生きてきた証だなんて水温む
自転車の籠にバゲット風光る

平井 奇散人

言い分けを吐き出しそうラムネ水
カラスらの蹴合いを分ける撒水車
カツ丼の日焼けサンプル昭和町
豆柴も不思議持つてる片かげり
建売りの親子三人百日紅
片思いエレキテケテケ柿若葉
炎天下実力三分に肚七分

桑原 汽白

みてしまうだいなたからものルビー
ドンタカタドンドンメリークリスマス
ふりそうでふらないけれどあいたいな
ゆきだるまポエムだとかのじよはいつた
てのひらにひとつてんとうむしのチョコ
にとうへんさんかくけいのなはふみこ
なすなさくキュンとつぶれたおしりがさ

鳥居 真里子

姫ざくろまだお歯黒にならぬかと
蒸発の人間みんな枇杷の花
春は名のみ孔雀の肉を喰ふ話
立春大吉ねずみもちの木の実のきもち
さへづりのはじめ仏壇巡りかな
ゆきうさぎ焦れ死になどしてみせよ
風花や町のかたちは象の耳

● 会員作品 ●

塩見 恵介

龍天に登る洗剤買ひ足しに
たんぽぽをくすぐりにくるむしめがね
パドックのすみれを食べている新馬
花見の絵まず太陽をかいてみる
出かけては遊ぶ約束麦の秋
春の風ほらえつとあれなんだつけ
母の日の敷居の低いナポリタン

山田 まさ子

洗いたてのジーンズきゅつと夏野原
天高くピエロの鼻を取り付ける
空調の音と見ている冬の薔薇
きりん坐はいつでもそこに福は内
かゆいのは予知能力かわさびがつん
春夕ベコントラバスの運び方
春昼の誰か消しゴムこする揺れ